

トマト、イチゴ栽培のよくある相談

～ よくある質問、素朴な疑問等をまとめてみました ～

Q. 尻ぐされ果の原因と対策を教えてください。

A. 【原因】

畑の乾燥、窒素の過剰施用によって、カルシウムの吸収が妨げられて発生します。

【対策】

- かん水や深耕、敷きわらで畑の乾燥を防ぐとともに、窒素肥料を適正に施用します。
- 発生が予想される場合は、開花花房中心にカルシウム剤の葉面散布を2～3日おきに2回散布します。

Q. 裂果の原因と対策を教えてください。

A. 【原因】

土壌水分の変動や、果実の吸水により、果実内水分が増加することが原因のひとつと考えられます。

【対策】

- 深耕して根群の発達を図ります。
- 土壌の乾湿の差を小さくします。
- 葉を保護して、葉面積を確保します。



尻ぐされ果



裂果

※注. 原因と対策は、「青森県「やさい栽培の手引き」」より引用

※注. 画像は、(株)誠和HPより引用

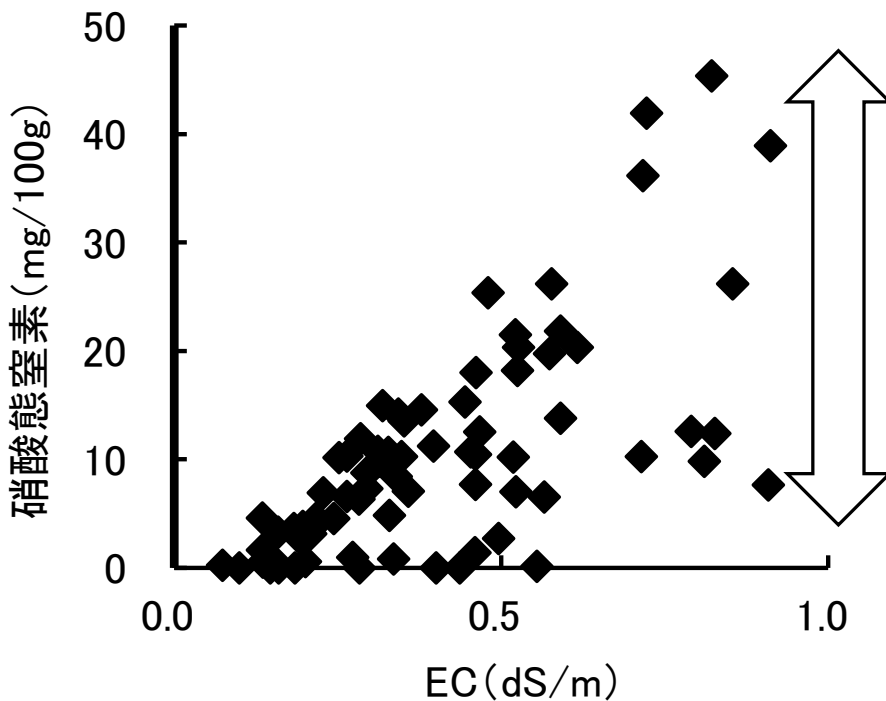
Q. ビニールハウスの土のECが高いのですが、どれくらい窒素を減肥できますか？

A. 【回答】

- 土のECから、窒素の減肥量を決定することはできません。
- ECが同じでも、土に含まれる窒素量は大きく異なります。
- 窒素の減肥量は、土の窒素量を測定してから決めましょう。

※参考. 青森県指導参考資料

「小型反射式光度計による土壤中硝酸態窒素の簡易測定法」(H13年度)
「施設土壌の実態と今後の土壌管理」(H17年度)



青森県のビニールハウスのECと硝酸態窒素

Q. 青森県でイチゴ栽培を始めたいのですが、
どのような品種がいいですか？

A. 青森県では、12月～6月に収穫する「とちおとめ」、「さちのか」、7月～11月に収穫する「すずあかね」、「赤い妖精」などが栽培されています。そのほかに、新しい品種として種から栽培する「よつぼし」があります。
栽培方法は、ビニールハウスで土耕栽培(畑に畝を立てる方式)のほか、高設栽培(プランター栽培の方式)があります。

※参考. 青森県指導参考資料

【肥効調節型肥料の全量基肥施用によるいちご「すずあかね」高設栽培の収量性】(H30年)

【いちご半促成栽培の有望品種「さちのか」の特性】(平成19年)

Q. イチゴを栽培していて株が枯れてしまいます。原因は何でしょうか？

A. イチゴが枯れる原因としては、土壌からの病気で「炭疽病」や「萎黄病」があります。また、イチゴは暑さに弱く、それに加えて土の過湿(土の水分が多すぎる)、さらに肥料が多すぎる場合にも枯れてしまうことがあります。

Q. イチゴの果実が茶色くなり大きくなりません。原因は何でしょうか？

A. イチゴの果実が茶色くなるのは、花が開花した時にアザミウマが発生していることが原因です。アザミウマは非常に小さな虫(1mm位)なので見つけにくいですが、花に息をフツと吹きかけると動き回るので見つけることができます。